

## 児童発達支援事業所における自己評価結果（公表）

公表：令和6年3月7日

事業所名 阿久根市子ども発達支援センターこじか

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である		○		工夫検討します。
	2	職員の配置数は適切である		○		学校、ハローワークへの求人募集の依頼を実施いたします。併せて職員が安心してかつ意欲的に職務に取り組めるよう、またそれを継続できるよう職務内・外の研修計画を立案実施していきます。
	3	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっているか。また、障がいの特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	○		子どもが生活の流れが分かって生活動作に取り組めるよう可動式の棚などを使って部屋の配置を変えたりしている。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	○		朝と夕方に掃除を行っている。子どもの活動しやすい広さのプレイルームを配置している。	
業務改善	5	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している		○		目的が明確な計画と実践を示し、評価を充実させていきます。
	6	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	○		個別支援計画の策定において保護者と面談を実施している。前期、中間評価、後期、最終評価、年に3回実施している。	
	7	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している		○		周知徹底を図ります。
	8	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている		○		外部評価について検討いたします。
	9	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	○		鹿児島県障がい児等療育支援事業による専門的療育指導のほか、内部研修の取り組みから、各種団体主催の外部研修につなげているが、今年度は感染症感染拡大防止のため外部研修を受けられていない。	
適切な支援の提供	10	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	○		相談支援センターこじかにおいて項目にあるように実施している。相談支援センターが策定するサービス利用計画に準じて個別支援計画を策定し、必ず保護者の承認を受けている。	
	11	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	○		生活において食事、排泄、衣着脱、睡眠・対人関係において遊び、コミュニケーションと項目を定め、項目間の関連も含め聞き取りできるようにしている。	
	12	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	○		家族支援、地域支援とともに項目があり、必要な支援・地域との連携について明記している。	
	13	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	○		前期については、アセスメントをもとに策定し、必要に応じて見直しをしている。9月末の中間評価、後期計画3月末に最終評価を実施し計画について、保護者とともにチェックする機会を設けている。	
	14	活動プログラムの立案をチームで行っている	○		月案、年間の療育計画について職員会議で共有、検討し、日案について各グループで話し合い策定している。	
	15	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	○		発達段階に促した、子どもの興味関心に合った活動の提供について、専門誌を参考にしたり、外部研修の情報で参考にするなどして設定している。	
	16	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成している	○		集団活動、生活をベースにしながらも段階的には個別に対応することもある。こどもの実態からズレない計画を作成している。	
	17	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	○		日案については事前に作成し、状況によってチェックを受ける等している。子どもの登園30分前の朝礼で最終確認をしている。	
	18	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	○		支援後に振り返りを必ず行っている。必要に応じて児発管や管理者も入って話し合っている。動画による考察を行うこともある。	
19	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	○		活動の振り返り、個別について記録している。記録用の動画を用いることもある。		

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
関係機関や保護者との連携	20	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	<input type="radio"/>		13項の機会の前に、計画、評価について担当と児発管で検討し管理者のチェックを受けている。	
	21	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	<input type="radio"/>		子どもの担当職員、児発管が出席するようにしている。	
	22	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	<input type="radio"/>		乳幼児健診後の「母子保健所管課の保健師と子育て支援センターが運営する親子教室、に職員を参加させている。保健師、子育て支援センターの保育士と関連機関連絡会を年に3回行っている。併行通園、一般施策への移行、就学、支援の開始、修了について個別に検討する。	
	23	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合) 地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている	<input type="radio"/>		出水地区療育、福祉ネットワーク会議、児童部会において医療的ケア児の現状について報告を受けている。医療的ケアが充実している児童発達支援と連携し子どもを受け入れたことがある。お互いの実践を公開するなどしている。	
	24	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合) 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている	<input type="radio"/>		相談支援専門員を介して行う場合と、直接連携し行う場合がある。	
	25	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	<input type="radio"/>		5月に幼保連絡会を行うなどして、地域の幼稚園、保育園、認定子ども園と連携している。教育機関とは、6月の就学を考える会、8月の学校向けの公開療育を行い移行支援につなげている。	
	26	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	<input type="radio"/>		学校訪問を行っている。移行支援シートを作成している。	
	27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	<input type="radio"/>		出水地区療育、福祉ネットワーク会議、児童部会で地域療育システムや、相互の療育の質の向上について話し合っている。研修を実施している。	
	28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある		<input type="radio"/>		グループによってになりますが、子どもたちの人に向かう意欲に合わせて丁寧に計画いたします。
	29	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	<input type="radio"/>		平成29年度、令和2年度、令和4年度は部会長の任についた。	
保護者への説明責任等	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	<input type="radio"/>		13項、20項の面談の他にグループは、月に1度実践の振り返りを保護者に対して行っている。また親子療育の取り組みを適宜行っている。	
	31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている		<input type="radio"/>		研修の充実を目指します。
	32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	<input type="radio"/>		年度始めに行っている。途中入園については、その都度行っている。	
	33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	<input type="radio"/>		13項の面談時に保護者の確認、署名、押印をいただいている。	
	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	<input type="radio"/>		日常的に職員が相談に応じるようにしている。また、ニーズを探り学習会も全体・療育グループごとに実施している。	
	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	<input type="radio"/>		学習の機会を一緒に確保したり、必要な資金確保のための活動にも協力している。サークル活動へも支援している。	
	36	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	<input type="radio"/>		管理者や児発管、相談支援専門員が相談内容によって対応するが、療育の状況によっては対応できないときがある。	
	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	<input type="radio"/>		各グループ毎に月報を発行している。年度始めには、年度計画を提示している。	
	38	個人情報の取扱いに十分注意している	<input type="radio"/>		保管については、十分に気をつけている。取り扱いについては、必要な機会を明示し同意を得ている。	
	39	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	<input type="radio"/>		している。	
40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている		<input type="radio"/>		より一層充実するよう目指します。	
41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	<input type="radio"/>		項目にあるマニュアルはすべて整備している。		

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
非常時等の対応	42 非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	<input type="radio"/>		非難・消火訓練の毎月実施、消防立ち合いの訓練を年2回	
	43 事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	<input type="radio"/>		家庭調査票・アセスメント時の聞き取りで確認している。	
	44 食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	<input type="radio"/>		嗜好調査とともにアレルギーに関する調査も行い、必要に応じて医師の診断書も提出いただいている。	
	45 ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	<input type="radio"/>		事故報告、インシデント報告について記録し、保管している。	
	46 虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	<input type="radio"/>		法人で人権研修に取り組んでいる。	
	47 どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	<input type="radio"/>		身体拘束は行わない。	